

2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

スーパーバイクレースinもてぎ

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

3月30日(土曜日) 天候:曇り 路面:ドライ

公式予選/1'51"638 7番手

3月11日(日曜日) 天候:雨 路面:ウエット

決勝/5位(16周)

開催地:栃木県・ツインリンクもてぎ

入場者数:13,000人(土・日合計)

全日本ロードレース第1戦が栃木県・ツインリンクもてぎで行われた。開幕戦ということで木曜日から特別スポーツ走行が設けられ、初日に1分51秒425、2日目に1分50秒708と着実にタイムを縮め、アベレージスピードも上がってきていた。

公式予選が行われた土曜日は、朝方まで雨が降り路面が乾いていく状態だった。午後に行われたJSB1000クラスのセッションが始まるころにはドライコンディションとなっていたが、気温が低く冬のような寒さの中でのタイムアタックとなった。今年からノックアウト方式のルールが変更され、まず第1セッションで全車が走行し、第2セッションは「トップ10チャレンジ」となり第1セッションでの上位10台のみが進出できることになった。

まず40分間で行われた第1セッションでは、マシンの状態、コンディションを確かめながらペースアップ。マシンセットをアジャストしながら1分52秒170で8番手につけ、15分で行われるトップ10チャレンジを迎える。台数が少ないのでクリアラップは取りやすいが気温が低いため一線のマージンは取らなくてはならなかった。本来ならば1分49秒台を狙いたいところだったが、そこは抑えつつ、計測3周目に1分51秒638をマーク。ポジションを一つ上げ7番手で予選を終了した。



2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

スーパーバイクレースinもてぎ

TOHO Racing with MORIWAKIレースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

決勝日は朝から小雨が降りウエットコンディションとなった。気温は、さらに低くなり6.9度と真冬なみの寒さの中で開幕戦が行われた。当初19周で行われる予定だったが、ウエット宣言のため2周減算、さらにウォームアップラップで転倒車があり、スタートがディレイとなり、周回数もさらに1周減算の16周で争われることになった。

3列目のアウト側から山口は好スタートを見せ、1コーナーに4番手で進入、さらに3コーナーでは中須賀選手をかわして3番手に浮上し、前をいくライダーを追う。レース序盤は、柳川選手、山口、中須賀選手、高橋選手の4台がセカンドグループを形成。山口は、3周目のV字コーナーで柳川選手をパスし2番手に上がるが、後方から追いつけてきた高橋選手に6周目にパスされ3番手となる。その後、単独走行となっていたがレース中盤辺りに柳川選手と中須賀選手の接近を許してしまう。そしてレース終盤になるとペースを上げられない状態になってしまう。ここで中須賀選手に、最終ラップに柳川選手にかわされてしまい5位でゴール。表彰台が見えていただけに悔しい思いもあったが、シーズンのスタートとしては、手応えのあったレースとなった。

ライダー 山口 辰也コメント

「昨年の開幕戦は、モノがそろっていない状態で迎えていたので、今年は大きく違いました。実際に昨年よりも速く走れていましたし、事前テストからいい調子できていました。マシンの的には、昨年の最終戦から変わっていませんが、積み重ねてきたものがあるので、マシンの理解度も深かったですし、戸井田メカニックと相談しながらいい状態で戦えたと思います。決勝は、雨の量が多い方に合わせたセットだったのですが、雨は、それほど強くならず終盤にペースを上げられませんでした。鈴鹿に向けてのテストもこなしたので次回は、しっかり表彰台に上がれるように走りたいですね」



2013 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

スーパーバイクレースinもてぎ

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

チーフメカニック／戸井田 剛コメント

「チーフメカニックとして山口選手と組むのは2005年以来のことなので久しぶりにレースを戦いました。今年は昨シーズンのデータベースがあったので事前テストから順調にセッティングを詰めてきましたし、ドライでもウエットでも表彰台を狙えるポジションにいられたと思います。まだまだ改善できる部分があるので、ライダー山口が得意なコースで狙っていきたいですね」

監督 齊藤 博士コメント

「JSB1000 クラス 2 年目、クラブ員が J-GP2 クラスと ST600 クラスに参戦し、チームとして所帯が大きくなって初めてのレースですし、チームにとってシェイクダウンのような開幕戦でしたが、結果以上に得たものはあったと思います。山口は、本調子ならば表彰台に上がっていたと思いますし、次回に期待しててください。クラブ員の 2 人には、もっと上手にサポートして、それぞれライダーとして成長できるように導いていきたいですね」



株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

担当 野口